

オレンジロードつなげ隊

中丹西

認知症～ひとりで悩んでいませんか？

第12号

令和3年3月 発行



オレンジロードつなげ隊だより

【事務局】京都府中丹西保健所 保健課 中丹西地域包括ケア推進ネット
〒620-0055 福知山市篠尾新町1丁目91番地 TEL0773-22-6381



このシンボルマークには、優しい眼差しで、
広く長く見守るという思いが込められています。

中丹西オレンジロードつなげ隊

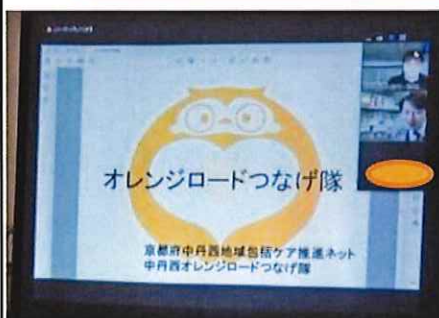
検索

詳しくは
HPを検索！！

オレンジロードつなげ隊とは

認知症を正しく理解してもらうための普及啓発を
企画・実践し、認知症のことをたくさんの人につ
てもらうために活動しています。

福知山公立大学にて中村文貴隊員がつなげ隊を紹介



令和3年1月6日(水)福知山公立大学 地域経営学部 杉岡秀紀准教授から依頼があり、1回生向け科目である地域協働論にて、中村文貴隊員(社会福祉法人希望の丘福祉会)が「オレンジロードつなげ隊」の紹介を行いました。今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、福知山総合庁舎からWEB(Zoom)での講義で、学生53名が受講しました。

中村隊員は、つなげ隊の結成経緯や活動紹介、若い世代と交流を通して活動をつなげていくことの大切さ等を講演しました。この講義の中では、保健所から「認知症について正しく知ろう」と福知山市から「福知山市における認知症施策について」の話題提供も行われました。



学生の感想

認知症への理解を持つことが大事だと十分わかりました。個性として捉え、補い合える関係を築いて、お互い気持ちよく過ごせたらいいなと思いました。

福知山でこんな身近でたくさんの活動がされていたことを知りました。オレンジロードつなげ隊さんの学祭での活動で、脳年齢の測定はおよそ1年前の出来事にも関わらず、私の記憶に残っていたのでインパクトがあって、とても有意義なものだったんだなと思いました。

今日印象に残ったのはオレンジロードつなげ隊です。曾祖母が認知症の疑いがあるので、正しい知識を身に付けようと思いました。

認知症豆知識

認知症によく現れる症状の『せん妄』について

『せん妄』とは、突然生じる注意障害を主体とした精神神経症状の総称です。

症 状: 昼夜逆転や不安・焦燥感、興奮、怒り、無関心、幻覚・妄想(幻視が多い)がみられ、夜間を中心に出現し、数時間から数日で変動します。高齢者に多く発症しますが、手術や入院など、通常と異なる環境におかれると若い人でも発症する場合があります。

原 因: 内科的な病気や脳の病気、環境変化のストレス、感染、脱水、薬剤による副作用が影響します。

治療方法: 気分を落ち着かせたり、睡眠を促したりする薬物療法が主体となるため、専門医受診が望ましいです。

予 防: 周囲環境や体調を整えることで落ち着く場合もあります。食生活や睡眠時間を整えることや水分補給をしっかりと行うことも大切です。

(参考文献「認知症ケアガイドブック」公益社団法人日本看護協会編集)

問題

認知症患者は2025年には高齢者の何人に1人となっているでしょう

①約10人に1人

②約5人に1人

③約3人に1人

答えは裏面

認知症カフェの紹介

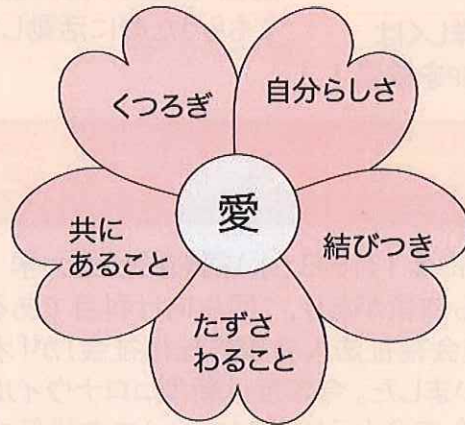
認知症の方はもちろん、介護されている方の癒やしの場、情報交換・相談ができる交流の場



『オレンジカフェ福知山inメゾンパルテール』

笑顔で過ごせる時間を大切に、認知症について話し合う機会や相談が気軽にできる場づくりを目指しています。 **”住み慣れた地域で「自分らしく生きる」を支えます”**

昨年のカフェの様子をご紹介します



お気軽にお問い合わせくださいませ

お問合せ先

株式会社ルネスアソシエイト 0773-22-3677
メゾンパルテール福知山 (担当 吉田・森本)

福知山市「認知症サポーター養成講座」が開催されました

福知山市では、市民の方を対象に、キャラバンメイトの研修を受けた地域包括支援センター職員による、認知症サポーター養成講座が行われています。緊急事態宣言を受けて、中止となった会場もあるかと思いますが、桃映地域については、感染予防に留意しながら、2会場で実施することができました。

これまで、企業や一般の方からの依頼で開催していましたが、今年度は参加される方を募集する形での開催で、2つの会場を合わせ、21名が参加、年齢は20代から70代の方まで幅広い年齢層の方が受講されました。

認知症サポーター養成講座は、認知症の症状やその対応について、基本的なことが一通り学べますが、受講された方の感想を聞くと、「もっと認知症について勉強をしたい」という方がおられ、認知症への関心が高くなっているということを感じました。

メディアでも認知症について発信されることが多くなり、認知症についての啓発や取り組みは、いろいろな機会で行われているため、認知症を身近に感じられるようになってきておられるのかもしれませんが、これからも、認知症サポーター養成講座のような認知症について知る機会を活用していただければと思います。

(桃映地域包括支援センター 南【オレンジロードつなげ隊員】)

庵我会館



大正文化センター



答え

②約5人に1人

厚生労働省の推計では団塊の世代が75歳代となる2025年には、認知症患者数は700万人前後に達し、65歳以上の高齢者の約5人に1人を占める見込みです。